

建したが中絶し、天正十五年日鏡が再興したといふ。能登名跡志には、『妙榮寺といふよき寺あり。是は飯森彌左衛門といひし人の開基の由。』と記す。

ミヨウエイジ 明榮寺 鳳至郡山是清にあつて、眞宗東派に屬する。明治十三年から寺號を公稱した。

ミヨウエンイン 妙圓院 加賀藩主第十三代前田齊泰の男釣次郎の法號。詳しくは妙圓院淨心宗智童子。

ミヨウエンジ 妙園寺 金澤高道新町に在つて、教徳山と號し、日蓮宗に屬する。天正十四年日相の創建といふ。

ミヨウエンジ 妙園寺 能美郡小松東町に在つて、日蓮宗に屬する。山號は法昌山。天正元年妙顯寺日啓の巡錫した時、天台宗佛生寺の和仙之に歸依して、名を妙園院日仙と改め、次いで村上頼勝から寺地を得て妙園寺を創建し、正保二年前田利常の命により今の所へ移つたのであり、明治四十年同地立像寺を併合した。

ミヨウエンジ 明園寺 河北郡興津に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年七月寺號の公稱を許された。

ミヨウエンジ 明園寺 羽咋郡敷波に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウオウイン 明王院 金澤八幡町の上卯辰山に在つて、眞言宗に屬したが、今は無い。寺記に、もとは後に本多安房屋敷になつた所に在り、前田利家以來の祈願所で、愛宕社を建て、金澤山愛宕寺明王院といふたが、慶長六年金澤城の鬼門先に當る卯辰山に移轉を命ぜられ、屋敷を拜領したとある。

ミヨウオウイン 明王院 江沼郡那谷寺中の一坊で、今舊花王院の南に明王院屋敷の遺名を存する。天文二十年二月明王院尊依が左衛門尉菅原光任と贈答した歌があり、永祿二年九月廿四日尊依の遷化した時光任が追善の歌もある。その廢絶した年紀は詳かでないが、前田利常の頃には既に存在しなかつた。

ミヨウオウイン 明王院 鳳至郡中居に在つて、眞言宗に屬する。永正二年弘賢阿闍梨の再建であつたが、戰國の世に衰滅し、その後快盛といふ者又之を復興した。寶永元年一覽記に、この寺に椿の大木があると記してゐる。

ミヨウオウジ 妙應寺 金澤裏金屋町に在つて、金澤山と號し、日蓮宗に屬する。天正十三年日宗といふ者枯木町に之を創立したが、慶長四年城外の惣構を造るに際し、その寺地を收めて修理谷上に替地を賜はり、尋いで岸川中河原町に移り、後又今の地に轉じた。

ミヨウオン 妙音院 石川郡鶴來なる金劍宮附屬の寺院であつた。親元日記文明十一年八月廿五日の條に、加州白山金劍宮妙音院と見える。

ミヨウガキン 冥加銀 ↓シヨウギヨウ 商業。

ミヨウカク 明覺 明覺は加賀の人で、悉曇の研究家である。蓋し我が國の悉曇は、天平八年初めて佛徹によりて傳へられたといはれるが、後平安朝に入つて、禪林寺の宗睿は悉曇私記を著し、五大院の安然も亦悉曇を著した。而も此等の書は、天台の智廣が著した悉曇字記を祖述したもので、梵字の綴字發音を説いたに止つてゐた。然るに明覺は何等

の師傳なく、古今の漢譯佛典に於ける譯語の異同を比較し、その變異の由つて來つた所を説明せんとしたもので、彼が研究の體度は實に驚嘆に値するものがあるといはれ、應徳元年五月に悉曇大底一卷を、寛治七年十二月に反音作法一卷を、承徳二年八月に四家悉曇記一卷及び梵音義四卷を、年代不詳に悉曇要訣四卷を著した。悉曇要訣は、安永三年高野山金剛峰寺の沙門常塔によりて上梓せられたもので、その第三卷は亦梵語決擇抄の名を以て行はれる。此等の諸書皆賀州隱者明覺撰と記するを常とし、彼は江沼郡山代の温泉寺の住僧であつたのである。温泉寺は眞言宗藥王院の前身で、室町初期以前に在りては台密に屬してゐた。嘉承元年八月明覺世職五十一にして、洛東東光寺に寂した。或は曰く、明覺は一に唯心房といひ、大法師位に上つたと。その悉曇の學は、門下兼範によりて承襲せられた。

ミヨウカクジ 明覺寺 羽咋郡向瀬に在つて、眞宗西派に屬する。

ミヨウカクジ 妙覺寺 石川郡金石の新町に在つて、眞宗東派に屬する。もと河北郡蓮塚に在つたが、享保年間今の地に移つた。諸家分脈系圖に、河北郡光現寺六代頓慧の子長源(寛永十一年得度)を開祖とする。

ミヨウカクジ 妙覺寺 河北郡中山に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

ミヨウカクジ 妙覺寺 鳳至郡鹿波に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウガタニ 名ヶ谷 珠洲郡南方の内の小字。

ミヨウガタニ 名ヶ谷 珠洲郡大谷の内の小字。

ミヨウガタニ 名ヶ谷 鹿島郡鹿の内の小字。元祿の調書に、鹿島の枝村藪荷谷村家數三軒とある。

ミヨウガタニ 茗荷谷 能美郡大杉の部落の北方に在る谷。

ミヨウガタニ 冥加谷 能美郡西俣の内の小字。

ミヨウカンイン 妙觀院 鹿島郡小島に在つて、眞言宗に隸し、小島山と號する。初め舊七尾の牛首山に在つて、觀音を安置したが、前田利家の七尾に居城の時今の地へ移つたといふ。能登名跡志に、『密宗妙觀院は小島村にありて、一山菊名石也。其上境内秀景限なし。』又金子有斐の能登遊記には、『寺在子海岸。南面小山。東對海。西北抱水田。小山其下半石巖爲骨。文理如菊銘石。上半土山而樹木叢生。其南面穿巖設門。門上有樓。可直達山頂。左有鐘架。登石磴數級有大悲殿。殿前平坦潔淨。可坐而望山海。』とある。

ミヨウカンジ 妙觀寺 能美郡別宮に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウカンジ 妙感寺 金澤六斗林に在つて、寶林山と號し、日蓮宗に屬してゐた。天正十九年日治小松に寺地を賜はり、前田利常の薨後金澤に移つて六斗林本覺寺境内に居たが、寛文十一年同町内に移轉し、明治の初法照寺を當寺に併せ、同二十年本覺寺に合同して當寺は廢せられた。

ミヨウガンジ 名願寺 金澤新聖町に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウガンジ 名願寺 金澤新聖町に在つて、眞宗東派に屬する。